▶今月の表紙◀
field：つり堀 中の島センター
photo&layout：本誌・里

へら鮒 3月号

Mar.2007 No.495
http://www.herabuna.jp

凍てつく水中から、食いアタリを導き出せ。
本格派・橋本幸一が公開する、
「段差の底釣り」必釣理論&実戦!!

13 特集 **魔法の段底**

23 感謝を込めて、超豪華賞品大放出
新春特大プレゼント

2 introdction ～野田幸手園 新春お年玉大会～

29 《新企画》戸張 誠 関べら戦記2007
《第一回》1月例会 冬枯れの横利根川

34 石井旭舟 へらぶな浪漫街道
《第五十回》千葉～茨城県 横利根川

40 《新企画》小池忠教 激釣の急所
《第二回》厳寒期の例会に向けての試釣 清遊湖

47 杉山達也のSUPER SPLASH!
《ROUND.14》真冬の最終手段「段底」 鬼怒川大自然

52 斉藤心也 炎のチョーチン12番対決!!
《第3戦》vs横山天水in筑波湖

59,114 最狂へラ戦士養成所"鮒の穴" 漢(オトコ)タカハシ
《第四十九話》新春特別対談「ドボ健ちゃんがやってくる!」

★AREA REPORT
60,66 鬼東沼（栃木県） 本誌・伊藤洋一
62,68 加賀三湖（石川県） 山本一朗
63,69 佐屋川温泉前寄せ場（愛知県） 後藤 誠
64,70,71 白川ダム（奈良県）,甘木公園の池（福岡県） 前田誠志,河口正伸

134 竹とともに生きる。
《第40回》「白道」 森内茂和

137 岡田 清 Deep Side Angle
《Vol.38》【ゼロ】 逆井へら鮒センター（千葉県）

143 中澤 岳 フィールド真っ向勝負
《Vol.14》谷和原大沼 新春お年玉大会のドラマ

148 《新企画》田辺哲男 MYへら道
《へら道その二》冬は釣り堀で癒されたい…。 つり堀・中の島センター

152 《新企画》吉川ひとみのあっち こっち そっち♡ 激闘編
《Vol.1》ひとピー、初釣り。野田幸手園新春お年玉大会で試練!?

156 稲毛利夫 崖っぷち釣行!
《第3回》師匠、一発大逆転!? 利根川本流&太田ふれあい農園の池（群馬県太田市）

160 私の宝物
《Treasure.14》ゲスト:横山貞治さん

193 棚網 久の我流
《第十三回》上層べらを釣り込む手段!! 釣り堀八十八

201 釣り味
《第3回》埼玉県川口市 本有庵「むら木」の【天せいろ大盛】

203 北川穂積 西の交友録
《第15回》ゲスト:久住博宣 釣り場:淡路島・ゴルフ場の池（兵庫県）

206 釣果予想クイズ

208 フィッシングレディ
《今月のレディ》松村蘭奈さん 清遊湖

釣り場割引クーポン券
p.163～

野田幸手園 椎の木湖
清遊湖 谷和原大沼
上尾園 F.A吉羽園
谷養魚場 将監
柳生FP 筑波白水湖
泉堰 逆井HC
友部湯崎湖
三和新池 狭山HC
新座LC 川越FC
芦田湖水光園
鳥羽井沼 大上へら池
霧の沼 小川つり堀園
清川つくしFC
千代田湖・舟宿 千和
相模湖・釣舟 五宝亭
相模湖・釣舟 天狗岩
吉森HC
甲南へらの池 当麻池
水藻FC 朝日池
NEW!釣り堀八十八

76 へら鮒釣り 超基本講座【道具作り編】
《第27回》フラシ作り①

83 ガチンコ道場
《第15回》二期生登場! 高橋秀樹鬼軍曹シゴキ塾。
そして…フィッシングクラブ匠会へ道場破り!?

91 都祭義晃 カリスマ伝説2007
《Vol.15》～谷養魚場 18年度チャンピオン大会～

99 江成公隆のトーナメンター、復活への道。
《Vol.57》大方ズラシ ～底釣りゼミ2007?～

106 夢追釣人(ゆめおうもの) 天野正由
今月の夢・2007は大殺界? 宮沢湖&狭山HC

110 水辺のプラネタリウム 吉本亜土
《今月の星空》「金閣寺」

119 へら鮒を三枚に下ろす 西田美明
《第3回》「冬眠・巣ごもりのへら鮒」

122 釣れてまっか～? 釣らせてくださいっ! 南 元彦
《第3回》メロンをくださーい!? 管理釣り場トム・ソーヤ

124 水と戯れ、風と遊ぶ ホワイト
《第3回》「近代的?管理釣り場!」

126 野田幸手園新聞

161 ワクワク管理釣り場情報

170 小売店情報

174 '07友部湯崎湖 新春へらぶな釣り大会
175 うしお苑 満3周年 新春感謝釣り大会 清遊湖
176 喜楽「こま鳥」展開催, 土方釣具「世志彦」展開催

★へら鮒BOX
177 里ちゃんの新米編集長雑記
178 情報発信基地
180 ボイス
186 農林水産大臣杯 日研全国一決定戦 横利根川
187 コラム『日研だより』 日研広報部長・遠藤克己
188 コラム『上村流!』 上村恭生
189 コラム『紀州"想いの竹"のものがたり』 中峯伸行
190 プレゼント発表
191 広告索引
192 編集後記

STAFF

●発行人
根本百合子

●編集長
田中里史

●編集部
大場勝良
諸冨一秋
伊藤小百合
伊藤洋一

●へら鮒NET
根本大作
高田 準

●企画
〈オフィス・えふ〉
藤原 肇

この物語は、
栄光、そして挫折を味わい、
今、再び這い上がろうとする一人の男の人間ドラマである。

江成公隆のトーナメンター、復活への道。

〈Vol.57〉

大片ズラシ
～底釣りゼミ2007？～
「一歩進んで二歩下がる!?」

text and photo by Kimitaka Enari and Satoshi Tanaka
業界初、Web連動企画！～いよいよ再発進！　《URL》http://hesar.yokohamatsurumi.net

「釣りに行かないヤツがノウガキ言うな！」
この連載が始まって以来、編集部に届けられる根強いクレームである。
「釣り以外のことばっかり書くな！」
同じく…。
でも、この矛盾する2つのクレームこそ、アニキの真骨頂を意味していると思うのだ。
今月はしばらく続いたナリーズネタも一段落し、コッテリグッタリ（!?）ノウガキワールドが炸裂している。
さあみんな、編集部にクレームのハガキを送ろう！
by里ちん

2007。

すでに3月号となってしまった今、遅ればせながら、皆様あけましておめでとうございます。例年、何かしら新年について原稿の中で触れてるんですが、この年末年始はすっかり忘れてました。

たしか昨年は「年が明けてすっかりヒマで、ラーメン激戦区を堪能中」というようなことを書いた。今年はそうはいかなかった。いや、おそらく昨年も当時の店長だけはシビれていたんだろう。年間総労働時間の縛りで年度末は悶絶だと書いたこともあるが、きっと一人で頭を抱えていたに違いない。僕が今いる店は、以前に在籍していた店より遥かに環境が整った店だが、そもそも営業時間×出勤日数が所定年間総労働時間を超えているという時点で無理な話なのだ。自分一人がインチキをすれば済むのなら、部下にはなるべく負担をかけたくない。

自分でも驚くほど絶好調だった昨年後半。年が明けてトラブルも連発。何回頭を下げに行ったか分からないし、クレーム処理の連絡に追われて仕事にならないが、ま、そんなもんだろう。いいことばかりは続かないし、あまり続いても気味が悪いので、ホッとしている部分もある。山あり谷ありでこそ人生と諦めた。

11月のナリーズ杯以来の初釣りの後は、へら釣りの楽しさを再認識し、「原稿のテーマも決まったし、今回は楽勝」と鼻息も荒く、「今年こそはウキを作るから」と、各トーナメントや有名釣り場のウキ規定のリサーチまで里ちんにお願いしていた。…で、気付いたら今日は20日。最初からギリギリ設定の締め切り*まであと1日を残すのみとなった。今年も全く進歩がなさそうな江成だ。

*里ちん註：だーからぁ、いつも言ってますけど本来の締め切りなんてとっくに過ぎてるんですってば。しかも結局、泣きの一日延長で…こっちが泣きたいっス！

初釣り。

僕の今年の初釣りは、1月7日に「武蔵の池」で行われたナリーズ2007年の初例会であった。ナリーズ杯に参加していただいた、くーみんさんらが所属する青べら会さんへの便乗参加というカタチで行われた。当日の武蔵の池には、赤べら会さんというクラブの例会も組まれており、あまりの偶然にちょっと笑った。残念ながら黒べら会や白べら会はいなかったが、朝からくだらないことを喋りまくる我々ナリーズは、さしづめベラベラ会といったところか。

今年より入会予定の綿貫正義氏と、「正会員はためらうが会友とか研究員扱い（トマちゃんと同じ扱い）でなら…」と、ややビビり気味の天笠充氏が当日の参加予定であった。平山幹事長によれば、綿貫氏の都合で武蔵の池に決まったらしいが、綿貫氏本人が急遽キャンセル。「ナリーズ入会に圧力か!?」…そんなワケはないのだ。仕事であるなら仕方ない。お仕事優先、釣りは趣味。それがナリーズだ。っていうか世の中の当たり前。

武蔵の池は、何年ぶりに訪れたかわからないくらいに久しぶり。ただ、あの鳥居祐輔君と待ち合わせておきながら、大渋滞で断念したのが最後（結局行ってない）のような記憶がある。ゴールデン時代は毎年かならず例会が組まれていたのでよく行った。僕の一番最初の連載である「どんまいフィッシング」での記念すべき?第一回目の取材場所でもある。

当時の記憶でイメージすれば、大型指向の元祖的な武蔵の池の正月は、おそらくとびきりシブい。釣り方も、浅いタナより底釣り。それも段底だ。

「段底は特別な釣り方ではなく、完全底釣りのいちバリエーション」とした北城理論を学んで以降、自分自身そういう意識で段底にトライした記憶がない。というより、段底そのものをやってない。これはチャンスである。

奇跡の一本。

ヘチの浅ダナの里ちんの隣で、僕は朱い12尺を継ぐ。

「朱紋峰、どう?」という下らない駄洒落を飛ばす。誰も相手にしてくれないが、しばらくして「りょう」ではないことに気付くと、皆驚きの声をあげる。

「…え? それって、初代っすか!?」

僕の子供の頃の憧れは、オリムピックの純龍心竿と、シマノの朱紋峰だった。社会人になってから必死で中古を探した。なかなか出物がなく、あってもひどいコンディションであるケースが多かったが、純龍心竿はマスターズの藤野和範氏から、朱紋峰はゴールデンの金子美明氏から譲り受けた。

コレクションを飾らずに、バリバリ使ってしまうのがホンモノのコレクターであるとかないとかと、よく聞く。「お金があれば二つ手に入れ、一つは仕舞って一つは使うのならわかるけどな〜。一つだけなら使えないよねぇ…」と感じながら、貴重な一つを使ってしまうのがアホな僕だ。

朱紋峰は金子氏から譲り受けて以降、冬の等々力FCで大活躍した。今は「ない」と思うが、10年以上前の等々力では、真冬の浅いタナが効いた。剛竿が主流の時代に、小ウキとアマいバラケを運べる朱紋峰の軟らかさは貴重だった。

そんなある日、アワせた瞬間に穂先を抜かれてしまう。メーカーにパーツがある筈もなく、途方に暮れていた。ところがその数日後、ある別の釣り場でマルキューインストラクターの熊谷 充氏にこの話をすると、氏は偶然にもある釣り場で朱色の穂先を釣っており、「これは欲しい人がいるに違いない」とキープしていたというのだ。お礼もそこそこに氏から穂先を奪い(?)、自分の丈二へ装着。するとピッタリ! その後、検寸。またまたピッタリ! こんなことってあるんですよ。事実は小説より奇なり。俺は江成。

ダンサーの底釣り。

「バラケが高い位置にあるというだけで、寄せ効果以外には普通の底釣りと何ら変わるところはない。食わせるのはあくまでも底面の下バリだ」

底釣りゼミでの北城氏の言葉。

段底という手が、上下とも着底していなければならないという「完全底釣り規定」により封じられていても、氏の言葉は「上バリが底に着いていても、大バラケで寄せを意識する底釣りが成立する」可能性を示す。実際に僕は、何年か前の隼人大池愛好会へ便乗参加した際に確認できたことだ。

一般的には、エサの打ち過ぎで粉ボケし、お腹いっぱいになってしまう危険性から、冬の底釣りでは大バラケは打たない。

魚っ気を感じたら、両グルテンにスイッチという戦法もあるくらいだ。粒子の拡散範囲の減少と、下ズリが有り得ないことによるタナの半自動凝縮、クワセの安定という恩恵を底面という壁から受けるため、底と宙の季節感には若干の差があるケースが多いが、宙のセット的な発想でいけば、バラケとクワセの距離が短いなら、なおさらエサは開かせたくない。それでも大バラケを打たなければへらを呼び込めない地合。それが、北城理論によって導かれる段底地合だ。

つまり段底は、どちらかと言えば貧果続出のトーナメントの中で、何とか一枚でもいいから拾っていこうというメソッドということになる。

が、ここで反論が噴き出す筈だ。

実は底釣りゼミ(オリジナル)での段底のくだりには、けっこうなクレームがあった。いつかとり上げようと思っていたので、その時には触れなかったが、代表的な二つを紹介しよう。

Q1 落ち込みで決まる段底もあります。これは底釣りではないと思います。

Q2 段底で大釣果に恵まれることもあります(下バリは着底している状態)。

全くその通りである。

へっ?と拍子抜けしてしまうかもしれないが、北城理論が絶対ではないのは氏本人もきちんと言っているし、限り無く理論で説明出来るよう日々努力していても埋まらない例外領域があるのは百も承知。それを考えるというパズルが楽しいのだとは、僕の言葉でさんざん書いてきた。ただ残念ながら、代表的なこの二例には、あっさり答えを返すことが出来てしまう。埋まらない例外領域ではないのだ。

A1 宙釣りと解釈すれば良いだけではないでしょうか…? 意識をどこに置くかというのは釣り人個々の判断であって、第三者が決めるものではありません。

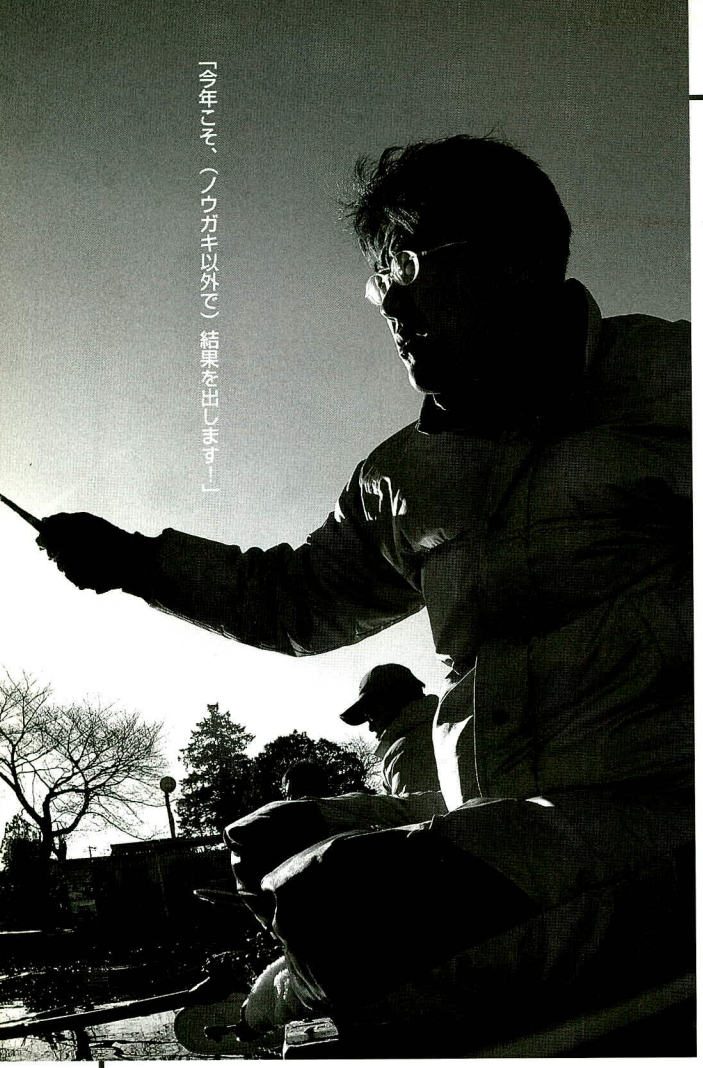
A2 想像でしかありませんが、北城氏なら、おそらく普通の底釣りでも釣れる地合だと判断するでしょう。バラケを高い位置から蒔かないと寄りが保てないのにも関わらず、それで寄れば上ズリも少なく安定して釣れ続くのだとしたら、薄いがへらはとても素直だと判断すると思います。もしかすると、並びみんなでバラケをセーブすれば、上バリも底につけた完全底釣りで普通に釣れるんじゃないかなぁ…。トーナメントで、それが出来ないという状況であれば、自分もやるしかないでしょうね。

今回、僕の並びで底を打ったのは、ホッシーこと保科氏と、天笠氏。スリーダンサーズイン ボトム。…意味不明。その前に文法的にどうなの?っていうのも置いといて、ここで小見出しのダンサーと段差との駄洒落を強引に成立させてしまうことにする。

ただ、天笠氏は段底ではなかったのでかなり無理があるのだが、どうしても段差をダンサーと引っかけたかった理由がある。

僕も出場した93年のダイワマスターズ全国大会の模様がテレビ放映された時、故・佐藤紫舟氏が解説の中で「段差の底釣り」について触れた。その時の「だんさ」のイントネーションが何度聞いても「ダンサー」で、それからしばらく頭にこびりついていたのだ。競技中の自分の釣りの内容についても、テンションの重要性を全く理解していなかった僕ながら、当時の自分の底釣りに大きなヒントを与えた大会だったため、「ダンサーと底釣りとムクトップと粒子酔い」は、今も同じ細胞に格納されている…という意味不明な話はここから先で明らかになっていったり、いかなかったり…するわけだが、

とりあえず話に手水を加えよう(戻す)。


「今年こそ、（ノウガキ以外で）結果を出します！」

大片ズラシ。

朝イチは宙を打った天笠氏を除き、僕とホッシーは段底。途中から底に変えた天笠氏は両ウドンの底釣り（完全）。午前中の段底組の状況としては、ナジミ込みにいくらかはサワるが、アタリが遠かった。ここでホッシーは、「へらが底に付いていない」と判断した。前日の冷たい雨が、底にまわっているのではないだろうかという判断だ。僕も大いに賛同した。というのも僕は前日に、家族と葛西臨海公園に出かけている。正月番組のマグロラッシュに影響された長男が、マグロを見たがったためだ。雨が降っているのでちょうど良かった（我が家の雨の日のお出かけは水族館が多い）。

一通り見終え、駐車場に向かう。と、歩道の脇にひっそりと佇む淡水コーナー。どうでもいいのか、そこは無料。僕はマグロよりこっち。で、水中をすべて見渡せる半地下で目に入ってきた驚愕の光景は…

●セオリーどおり、ドン深にほとんどの魚種がたまっている。

●…がしかし、もっとも深い位置にいるコイもマブも、底面から1尺ほど離れてサスペンド（浮遊）！　ほとんど動いていない。

この時、「明日は底釣りはねぇな…」と思った。ただし、である。ドン深を控えたカケアガリの、最深サスペンドラインとぶつかる位置にだけ、腹が底面スレスレのマブナの群れを確認。そして少ないながら、逆立ちして泥を吸うマブも見ることが出来た（マブもちょっとは逆立ちするんですねぇ…クチビルだけジャバラッと伸びるのかと思ってましたが、やっぱり水槽の金魚と一緒ですね）。ドン深でサスペンドしているマブよりも型は落ちるが、釣るならそこしかないだろう（型が小さいからこその活性なのかもしれないけどね、と思わず女房に語りかけた時の、「コイツ、アホだな」という表情が忘れられない）。おそらくドン深の宙の魚はアタリを出さないのではないか。

とても勉強になった水族館だが、翌日に底釣りを選択しないかと言えばそんなことはないのが僕だ。だって池違うしぃ。武蔵は段底が定番だしぃ。

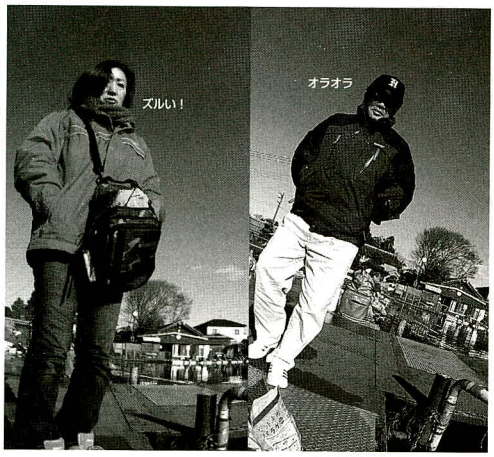
少し手水。で、ホッシーと僕は「へらが底に着いていない」としながらも、そのまま釣り進んだ。二人とも竿一杯の釣りが嫌いじゃないし、北城理論であるところの「バラケを高い位置から蒔く寄せ効果」が、本当に段底の最大の利点であると信じるならば、打ち続けるしかないからだ。抑える方向はナンセンスということになる。やがてホッシーのウキは、へらの寄りを伝えはじめた。

サワリがあってもなかなか落とさないのは変わらないが、僕のウキも動き始めた。あいかわらずへらが底に向かないのだろうか…そんなことを感じながら、両ウドンの底へ転向した天笠氏を見にいくと、いきなりアワセた。氏は毎回サワると言う。ここで、「へらが底に着いていない」のと、「今日は（段底が有効であるならば）寄せなければならない地合である」は、疑わなければならなくなった。段底と両ウドンでは水中に提供する粒子の量と拡散がまるで違う。麩を打つことでウワズリを招いてしまっているのかもしれない。いや、底で口を使いたいへらは底で食うだろう。だから、そうじゃないへらを寄せてしまっているということになるのかもしれない。すなわち宙で相手にすべきへらを。だがしかし、同時に底で食いたいへらも寄っている筈だ。弱々しいサワリ?や糸ズレは宙のへらのせい

新作!!
慎重にテストを繰り返した底釣り専用タイプ。
杉山作初の美しいブラックボディで登場！
【底釣りスタイル】
杉山作
繊細な「底」を完全表現する専用タイプ。
●ボディは羽根2枚合わせ5.5㎜径。精悍な極薄ブラック塗装仕上げを採用
●ダイシン製ホワイトトップ（内径1㎜パイプ）採用。軽量かつ視認性大幅UP！
●サイズ：一番（T10㎝ B9㎝ カーボン足4.3㎝）～六番（T17.5㎝ B16.5㎝ カーボン足4.7㎝）
ワンサイズごとにバランスを突き詰めた設計で、スムーズなナジミと理想的な返しを実現！
●定価1本7,350円（税込）
取り扱い店〈五十音順〉
埼玉・越谷 かわせみ（☎048・969・5067）　茨城・下妻 こやの釣具（☎0296・44・1619）　東京・渋谷 サンスイ川釣り館（☎03・3499・5025）
埼玉・入間 へらの三水（☎042・964・2093）　栃木・益子 フィッシングハウスほその（☎0285・72・2215）　神奈川・川崎 鮒仙人（☎044・287・7470）
東京・吉祥寺 丸勝（☎0422・22・8923）　東京・青梅 吉川釣具店（☎0428・22・2467）

のりちゃんのへら鮒釣りに対する情熱は、凄まじいものがある。見習え江成！

天笠氏、ナリーズ加入か!?（ナイナイ）



平山夫妻、撃沈！　ヘチでいい気になって釣りまくっている里を脅しに来る…

にするとしても、アタリが少な過ぎる。アタってもカラやスレだ。抑えた完全底釣りに転向するにせよ、宙に転向するにせよ、現状のままもう少しアタリを増やす方法を考えておかなければ自分のためにならないと思い、僕は考えた。

段底で下ハリスをズラす人はあまりいない。テンションがとれてしまい、アタリが伝わらないというのが一般的な見解だ。しかし、北城理論で導き出されたズラシの効果は、「へらが逆立ちしたときに、ハリスが触れるか否か」というものだったはず。たぶんそうそう触れないが、触れそうならそばに近寄らない（アタれない）ということだ。段底にかぎって、トントン～チョイずらしでもへらのハリスへの警戒心がないということは有り得ない。ならば、段底も普通の完全底釣りと同じように考えてもいいのではないか。もし選択している釣りが、バラケがやや底を切った宙にある片ズラシだったなら、北城理論信奉者ならおそらく、何のためらいもなくズラシを入れていくことを考えるだろう。セッティング的には、段底は「大片ズラシ」だと言えなくもないのだ。水中でのバラケの拡散が、「真下のクワセに降り掛からなくなるため、段底においてのズラシはタブーだと言う人がいるかもしれない。水中には流れもあるし、へらのアオリもあるのだが…。

大きくズラして角度を付けたハリスに、アタリを伝えるためのテンションを与えるのは、言うまでもなく「沖打ち」。段底でおもいっきり振り切り。やってみたら、全然オッケーだった。明らかに決めアタリが増え、ポツポツと釣れ始まった。が、このまま釣れ続かないのが僕。手前への流れがいちだんときつくなり、どう振り切ってもテンションがとれてしまうのだ。早いタイミングでアタってくれればいいのだが、なかなかこちらの思う通りにはいかない。またまたスレが増えた。テンションが消えた「ズラシ過ぎ」のサインである。そうは言っても、角度を付けるためのズラシであるので、トントンにしてテンションを保持しても意味がないのだ。ちょうどその頃、ホッシーが「わかった！」と高らかに宣言。そして本当にペースアップ。しばらくして、「沖打ちでテンションキープ」だと種明かし。現役トーナメンターと僕が同じ結論に達していたことが嬉しい。でも僕は手詰まり。彼と何が違うのだろうか。ハッキリとは聞かなかったが、彼は僕のように大きくズラしていない。そしてクワセがウドン。僕は実はグルテン*を使っており、もしかするとトントンの時でさえも、テンションが甘かったのかもしれない（もちろんバラケも違うわけだけれども）。シンプルな言葉にすれば同じ結論であっても、途中経過も違えばニュアンスもだいぶ違うと感じ、喜んでばかりはいられなくなった。しかし、これも勉強のチャンス。あえてウドンをもらいに行かずに、もう少しハマってみることにした。

*段底において、今やクワセはウドン全盛の中、あえてグルテンにこだわった江成。その理由は底釣りゼミ（オリジナル）を読めばわかる！　バックナンバーをどうぞ♡

上バリというアンカー。

僕の釣りに絶対的にテンションが欠けているのであれば、トントンとウドンに頼らずに何が出来るだろうか考えた。

目の前でテンションを奪い去っているのは、風による水の流れだ（テンションを与えてくれる流れもあるが）。

流れを完全に止めるのは無理だが、いくらか緩和するにはウキを大きくすると効果がある。が、ウキケースを開けると、ひとまわり&ふたまわり大きいサイズのウキは、トップが折れてしまっている。

まったくもって話にならない…。

他に手はないか？　ハリスオモリなんてのはどうだろう。下バリに巻くとさすがにカラの元なので、上バリに巻くのがセオリー。あ、上バリは宙だった。沈没しちゃうだけじゃん。

じゃあ下バリをワンサイズあげてみようか。この状況でその位じゃ効果感じないかなぁ…。

待てよ？　上バリ？　天笠氏の釣り（バランスの底釣り、両ウドン）でへらが底にいないということもないのは証明されているんだから、上も底に着けたっていいんじゃん！ハリスオモリなんてしなくたって止まるかも！

完全底釣りへ即転向。

結論から言うと、止まらなかった。

しかし、明らかに手前に戻されるスピードは落ちた。

軽いクワセを用いる際、そのテンション保持に、上バリと一般的な底釣り向けの重い素材がメインのバラケが一役どころか二役もかっていることは間違いない。逆に、そのアンカーがない底釣りである段底においては、下バリとクワセの重さのみでテンションを保持しなければならないことになる。トントンが基本というのは伊達ではないのだ。が、テンションさえ保持出来ればいくらズラしても問題ないわけだから、セオリーを疑わないのは問題である。また、段底でウドンに代表される重めの固形のクワセを用いるのが一般的になった理由もテンションにあるだろう。

でもきっと多くの釣り人はそういう意識ではなく、段底を宙の「セット釣りの延長」として「のみ」捉えた結果、宙のセットでもっともポピュラーな固形のクワセを「なんとなく」選択しているような気がしてならない…。

段底百態。

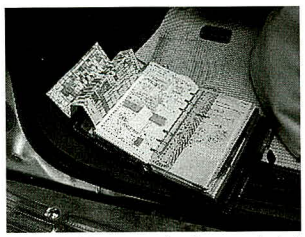
僕よりはるかにテンションが生きていたホッシーでさえも、いよいよ底釣りに悶絶しはじめた。

待ってもアタらなくなったわけではないと思うが、流れがキツ過ぎて、一点に寄せ切れないのだろう。ここでホッシーはフレキシブルだった。朝からどう考えても底より上にへらが濃い状態ならば、無理して底で食わせることもない。

ぶら下がれば下バリは底というタナ設定やセッティングはそのままに、アタリ取りの位置をまるっきり変えた。テンションがどうのとか、ズラシがどうのとかいうのはあっさり放棄し、そのかわり今度はバラケ合わせに集中。完全な落ち込み狙い。セット的段底。というか、もはや宙だ。そして的中。大風で底釣り組も浅ダナ組も悶絶するなか、「深宙」で快調にカウントを重ねた。

底釣りと捉える段底もあれば、まるっきり宙のセットと捉える段底もあっていい。宙のセットのイメージながら、食わせるところは底面というこだわりの変則セットがあってもいい。どれもがへら釣り。みんな繋がっているのだ。

と、…そういう記事にちゃんと書けたかな？（時間切れ！）



黒革の手帳。ノートパソコンにかわり、江成の片腕に返り咲いた噂の？システム手帳（って死語？）。そのカスタマイズぶりは、以前紹介したハリスケースと全く同一のノリで、使いやすいのか使いにくいのかよくわからん…。休日の釣り場にも持参するなんて、ホント御苦労様です。ただしこの日は江成ではなく、隣の須崎氏の電話が鳴り止まなかったようで…。ナリーズにはオンもオフもへったくれもない「デキる」会員が多いのだ。もちろん里ちんも含めて♡

…で、釣りの後はガチンコのりちゃんのお店に移動し、コッテリ新年会。無理矢理連れてこられた天笠 充氏（左端）は強引にナリーズ入会を勧められ、「私はあくまでゲストでたまに遊びに来るくらいで…」と、やんわり、しかしハッキリ断っていた。
さすが、アナタは正しい！

NARIES 総合成績

順位	選手名	例会参加	重量kg
1	須崎副会長	5	101.05
2	平山奥様	5	90.05
3	里ちん	5	83.75
4	江成会長	5	75.12
5	保科健二	4	69.05
6	平山幹事長	5	67.35

NARIES 第五戦　武蔵の池 2007.1.7 Result

順位	選手名	重量kg
1	保科健二	12.6
2	ガチンコ卒・木村（ゲスト）	9.2
3	里ちん（所用で早上がりヘッチン）	8.8
4	デューク須崎	8.4
5	天笠（ゲスト）	8.2
5	ガチンコのりちゃん（ゲスト）	8.2
7	江成会長	5.8
8	mimiさん（平山奥様）	5.4
ビリ	平山幹事長（終了後、炎上！）	2.0

里：アニキ、年間総合成績が最終結果じゃないってことは…。2006年度はいつまでで集計するんすか？　3月？
江：何言ってんの？　8月に始まってるんだから、ラストは7月に決まってんじゃん。やっと折り返しだよ。真夏の激活性で、最終例会大逆転はあり得るワケ。面白いでしょ？

…会長は偉いのである。なんでも勝手に決めてしまうのである（ところで里は会員なワケ？）。

釣番付

料金表

50名まで	55,000円
51名～75名	60,000円
76名～100名	65,000円
101名～125名	70,000円
126名～150名	75,000円
151名～175名	80,000円
176名～200名	85,000円

・仕上がりは黒一色です
・人数は成績表部分のみ数えます

書体見本

1.ぐりへら鮒会
2.ぐりへら鮒会
3.ぐりへら鮒会

・番付をインターネットで公開できます（無料）

お問い合わせご注文はお早めに！

取扱店：柴　舟　03-3613-2727

ウキや小物の銘入れに
転写シール

初回注文黒一色、300銘で8,500円～
2回目以降同じものをご注文の場合は3,500円～

・8書体、8色を御用意しています
・角印も作れます

取扱店：
柴舟（東京都江戸川区）
03-3613-2727
佐伯釣具店（神奈川県川崎市）
044-911-3722
SANSUI川づり館（東京都渋谷区）
03-3499-5025
フィッシング中原（神奈川県川崎市）
044-711-8266
鮒仙人（神奈川県川崎市）
044-287-7470

お問い合わせ、ご注文は各取扱店または下記HPまでどうぞ

office27
あとりえぐり

http://www.office27.com
E-mail:info@office27.com

へら鮒釣りの楽しさを追究し続ける…

へら鮒

Monthly fishing magazine herabuna

No.495
Mar.2007
3

昭和19年3月1日発行（毎月1回1日発行）
第42年 第3号
昭和41年5月4日第三種郵便物認可

凍てつく水中から、
食いアタリを導き出せ。
本格派・橋本幸一が公開する、
「段差の底釣り」必釣理論&実践!!

特集

魔法の段底

新春特大プレゼント

感謝を込めて、超豪華賞品大放出。
まだまだお正月気分で応募しよう!!

昭和41年5月4日第3種郵便物認可
第42巻第3号（毎月1回1日発行）
平成19年3月1日発行

へら鮒 2007 3 魔法の段底

国際フィッシングショー2007
2/9・10・11「みなとみらい・パシフィコ横浜」

つれるエサづくり一筋 マルキュー

厳寒期のセット、くわせは「力玉大粒」と「特選わらび彩」!!

名手・高橋秀樹。
厳寒期の釣りで彼が使うくわせは
「力玉大粒」と「特選わらび彩」だけだ。
この2つを使う理由を、高橋に訊いた。

HIDEKI TAKAHASHI

高橋秀樹の戦術。

**サワリやアタリを出したいときは「力玉大粒」。
魚の密度が濃くなったら「特選わらび彩」。**

スタートは、軽く、魚を誘える「力玉大粒」。魚の密度が濃くなって、明確なアタリが出にくくなってきたら、やや重く、ハリスの張りが出る「特選わらび彩」へ。さらに釣っていき、アタリが少なくなってきたら、再度「力玉」へ。高橋は、このローテーションを繰り返していくという。
彼の場合、ハリスの長さは、一度決めたら、それほど頻繁には変えない。「ハリスの長さを変えるより、くわせのローテーションで状況に対応したほうが手っ取り早い」という理由からだ。軽いくわせで明確なアタリを出そうとしてハリスを短くすると、逆にアタリがなくなることがある。それよりも、まず重いくわせでハリスを張らせて、それでもダメならハリスの長さを詰めるほうが、時間のロスを抑えられるのだ。
なお高橋は、「特選わらび彩」分包1袋に水135ccを加えてつくっている。

●特選わらび彩 28g×3

●力玉大粒 70g

マルキュー株式会社
〒363-8509 埼玉県桶川市赤堀2-4
お問い合わせ 本社・桶川工場:048-728-0909 大阪支店:072-824-0909 四国営業所:0877-44-0909 九州営業所:0942-82-0909
ホームページアドレス http://www.marukyu.com/
釣り場でエサに困ったら iモード・ホームページ http://www.marukyu.com/i
釣れるヒント満載!! へら鮒天国
マルキューホームページ内の「へら鮒天国」では、新鮮な釣果情報を掲載中。あなたのお気に入りの釣り場の情報が、見つかるかも。
http://www.marukyu.com/ マルキューへら鮒メールマガジンも、お申込はこちらから。

定価 1000円 本体九五二円
(株)へら鮒社
雑誌 07907-3
4910079070377
00952